

# 第3次三重県スポーツ推進計画（仮称）中間案の概要

## 1 はじめに 中間案P1~2

### 計画の策定趣旨・位置付け

- ▶スポーツ推進に関する総合かつ計画的な推進を図るために策定する「地方スポーツ推進計画」（スポーツ基本法第10条、三重県スポーツ推進条例第16条）

### 計画期間

- ▶令和5（2023）年度から令和8（2026）年度までの4年間

### 計画におけるスポーツの定義

- ▶勝敗や記録を競うものだけでなく、「楽しさ」や「喜び」につながる身体活動全般

## 2 計画の背景 中間案P3~5

### 県内スポーツの状況

- ▶東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組
  - ➔スポーツへの関心の高まり
- ▶三重とこわか国体・三重とこわか大会に向けた取組
  - ➔支える人づくり・スポーツの機運醸成／競技力の向上／施設整備等の多くのレガシー

### スポーツを取り巻く状況

- ▶人口減少・少子高齢化／新型コロナウイルス感染症の拡大／DX（デジタル・トランスフォーメーション）／SDGs（持続可能な開発目標）／中学校休日部活動の地域移行／国の「第3期スポーツ基本計画」

### 強じんな美し国ビジョンみえにおけるおおむね10年先の展望

- ▶人口減少・高齢化の進展に伴い、特に若年層ではスポーツ人口が減少するとともに、心身の健全な成長に有益となる、スポーツに親しむ機会が減ることが懸念されている
- ▶高齢者層では健康志向により、スポーツへの関心・意欲が高まり、より一層スポーツに親しむ機会が求められている
- ▶地域における絆づくりにおいて、スポーツの持つ力に大きな期待が高まっている

## 3 三重県のスポーツの現状・課題（第2次推進計画の取組検証） 中間案P6~12

### 現状

- ▶子どもの体力について全国平均値を上回る／児童生徒の総運動時間の減少【子どもの体力向上】
- ▶運動・スポーツ実施率52.7%、目標値（65.0%）と大きく乖離【スポーツ活動の推進】
- ▶R4栃木国体男女総合成績12位、東京2020オリンピック競技大会に三重県ゆかりの選手19名出場（過去最多）【競技力の向上】
- ▶三重とこわか大会に向けた選手発掘・育成、指導者養成等/東京2020パラリンピック競技大会の開催と相まって、障がい者スポーツに対する県民の関心が高まる【障がい者スポーツの推進】
- ▶東京2020大会関連イベントや両大会に向けた取組により、県民のスポーツへの機運が高まる【地域の活性化】
- ▶国体競技施設基準適合に向けた県営スポーツ施設の整備【施設整備】

### <第2次推進計画の指標>

目標項目	基準値 H29	実績値				目標値 R4
		R1	R2	R3	R4	
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果(全国比)	48.81	49.2	— (調査中止)	52.3	公表前	51.5
成人の週1回以上の運動・スポーツの実施率	43.2%	50.5%	50.4%	50.5%	52.7%	65.0%
国民体育大会の男女総合成績	27位	14位	— (開催延期)	— (開催中止)	12位	10位以内
障がい者スポーツに関心がある県民の割合	—	54.0%	49.4%	56.1%	50.8%	60.0%
スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じる県民の割合	84.2%	92.5%	81.5%	86.1%	76.2%	90.0%
県営スポーツ施設年間利用者数	842,648人	931,852人	437,505人	555,035人	506,210人 (10月末時点)	969,930人

### 課題

- ▶体育授業に向けた研修会等の開催／運動・体力の重要性等について家庭・保護者への普及・啓発／運動部活動の地域移行と受皿づくり【子どもの体力向上】
- ▶スポーツの習慣化／スポーツに親しめる機会の充実【スポーツ活動の推進】
- ▶三重とこわか国体に向けて高めてきた競技力の維持・向上【競技力の向上】
- ▶障がい者スポーツの裾野の拡大／選手育成・競技団体活動への支援【障がい者スポーツの推進】
- ▶両大会の開催競技の地域への定着【地域の活性化】
- ▶安全・快適な施設環境整備／利用者の満足度向上につながる効果的・効率的な運営【施設整備】

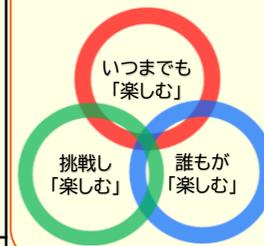
## 4 計画の基本方針 中間案P13~15 / 5 推進施策の展開 中間案P16~48 / 6 計画の実現に向けて 中間案P49

### 計画のめざす姿 スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ ～ スポーツを「楽しむ」 三重の環 ～

#### 推進施策

推進施策	推進施策の方向性	施策構成(取組)
1 スポーツにふれ親しむ環境づくり ～いつまでも「楽しむ」～ (P16~27)	▶県民の皆さんが、スポーツによる「楽しさ」を享受できるよう、生涯にわたって運動・スポーツにふれ親しむ環境づくりを進める ▶社会情勢や個々人の置かれた状況に応じた取組を進める ▶障がい者スポーツの裾野の拡大を進め、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツに参加できる環境づくりを進める	▶子どもたちが運動・スポーツに親しむための取組の拡充 ▶これからの学校スポーツと地域移行 ▶生涯を通じたスポーツ機会の充実と健康づくりの推進 ▶障がい者スポーツの裾野の拡大 ▶地域スポーツの担い手の養成・資質向上
2 スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～ (P28~37)	▶アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図る ▶三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高める	▶未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成 ▶選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上 ▶三重県を代表するチームの強化支援 ▶県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援 ▶国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援
3 スポーツを通じた地域活性化と共生社会の実現 ～誰もが「楽しむ」～ (P38~48)	▶スポーツの持つ力で人や地域の交流を促すとともに、県営スポーツ施設の計画的な整備を進め、地域の活性化につなげる ▶障がいの有無、国籍・文化的背景や性的指向・性自認などにかかわらず、多様な主体が安心してスポーツを楽しめる環境づくりを進めることで、共生社会の実現につなげる	▶三重とこわか国体・三重とこわか大会のレガシー継承・発展 ▶安全・快適なスポーツ環境の提供 ▶スポーツを通じた交流やスポーツツーリズムの促進 ▶スポーツを通じた共生社会の実現

#### 【取組のイメージ】



みえスポーツ応援マスコット「とこまる」

#### <第3期スポーツ基本計画の新たな3つの視点>

「つくる／はぐくむ」  
「あつまり、ともに、つながる」  
「誰もがアクセスできる」

#### <両大会のレガシー>

「スポーツを支える人づくりとスポーツの機運醸成」  
「県民の皆さんに夢や感動を与える競技力の向上」  
「県民の皆さんがスポーツを楽しむための施設整備」